



楽部」が協力。試行を始めた昨年は起業家育成支援講座を開いた。経営者と学生が語り合う座談会などを開いている。

「人と違うことを怖いと思わないハートの強さが大切」「深いですわ」。今月8日に大

大阪学院大(吹田市)は、卒業生の経営者からビジネスの現場について学ぶ取り組み「ビジネス・チャット(B-Chat)」を今年度から本格的に始めた。商学部の働きかけで、経営者のOBらで作る「フェニックス倶

学キャンパスのラウンジで開かれた座談会には卒業生8人が出席した。卒業生1人と学生2〜3人が丸テーブルを囲んでざっくばらんな雰囲気でも語り合った。

参加した経営学部2年の松井佳輝さん(20)

ビジネス・チャット



卒業生の経営者から経験談を聞く学生ら
—吹田市岸部南2の大阪学院大で

大阪学院大学

は「起業したいので、いい機会と思って参加した。考え方や人間像に触れられて良かった」と話した。経営学部2年、豊嶋陸さん(20)は「講義では聞けない個人的な質問や相談ができた」と満足そうだった。

座談会に参加したフェニックス倶楽部の代表幹事で、兵庫県三田市などにスーパーマーケットを展開する西山寛商事(京都府福知山

市)社長の西山進さん(66)は「実務に即した学びを取り入れ、魅力のある大学になってほしい。私たちは会社経営の実体験を話すことができるので、学生には実のある勉強をしてもらいたい」と後押しする。

今後は、女性経営者を招いた女子学生向けセミナーなども開催していくという。同大学の担当者は「商学部から始まった社会科学系の大学らしい取り組み。これからも広げていきたい」と話している。

先輩「経営者」から経験談

【椋田佳代】